

● アニマルサンクチュアリ ●

多くの人々が自然と共生するために



パッチ状に木を切り、空が見えます



倒木処理

今年のレンジャーの課題の一つに、「アニマルサンクチュアリ」として、人と野生動物が棲み分けながら共存する取組が加わりました。

書物や研究者の報告書には色々なことが書かれていますが、概念の域を出ないのがほとんどだと思います。そこで、私たちは試行錯誤を繰り返しながら、実際に野生動物と棲み分けながら共存して、生物多様性を担保して豊かな自然を次世代に残してゆく取組を始めました。

昔の話を地域の古者から聞くと、生活そのものが自然と共存する暮らしをしていたことが解ります。しかし、現在は、暮らし方も変わり、森を維持してゆく術も危うくなっています。そんな中で、新しい形での森との関わりを模索しなければと考え

ます。冬には、奥山に野生動物のエサとなる堅果類（ヤマグリ）をパッチ状に木を切って植え始めました。また、この夏には、人家周辺で、野生動物が隠れ家として潜むヤブの刈り払いにも手を付け始めました。まだ、試験的な取り組みで、空いた時間と草刈をしている状況ですが、この秋に収穫を迎える畑が荒らされないことを願っています。

このような取り組みで、チェーンソーや草刈り機などの作業機械が重要な道具となっています。

かつての暮らしでは、腰鋸と大鎌で日々の暮らしの中でこなしていた作業ですが、私たちは、作業の為に時間を作って山に入ることになり、効率が一つの重要な要件になっています。



← イノシシなどが潜むヤブ



← 試験的な草刈箇所（途中）

同様に、あきる野市の「恵みの森」の取り組みのなかでボランティアとして山に入る方も出てきました。当然、山林や里山の管理でチェーンソーなどの機械を使う機会も増えてきます。特にチェーンソーでの事故は重傷事故や死亡事故も多く、大変危険な道具と言えます。そこで、チェーンソーのメンテナンスや初歩的な安全な取扱いの講習会を「NPO 法人 ふるさとの森づくりセンター」との共催で「きこり講座」という形で行っています。

これからも多くの方が、安全に「あきる野の森づくり」に参加されることを願っています。（杉野）



↑ 分解掃除

← チェーンソー講習会の様子
（サポ-トルンジャーの協力のもと）

森林レンジャーの一日 ～テレビの生放送を経験する～



7/27、小宮ふるさと自然体験学校にてNHKのテレビ取材がありました。生放送ということで早朝に集合し、リハーサルを5回くらい行なって、本番の生放送に挑みました。右の写真にあるのがカメラテスト風景です。レンジャーそれぞれが担当している活動をインタビュー形式で受け答えしました。隊長はキノコの調査ということで偶然前日に発見した冬虫夏草を紹介しました。パプロは野生動物調査ということでカモシカ、トウキョウサンショウウオを紹介し、佐々木は水辺の生き物を紹介。あきる野の森のまとめとして加瀬澤が野生動物のフンと森のつながりを紹介しました。(佐)



↑ ニホンイシガメ
絶滅危惧ⅠA類(東京都レッドリスト)
主に山麓部の河川、沼地、水田などに生息

秋川のニホンイシガメ ～草刈り中に草むらから現れる～

7/20、以前ヤマボウシなどを植樹した瀬音の湯の斜面で草刈りを実施しました。その時にサポートレンジャーの1人が草むらでガサガサしている生き物を発見。最初はウサギでもいるかと思っただけなのですが、実際出てきたのは甲羅の長さが21.5cmもあるニホンイシガメでした。重さは1kgのメスで、なぜ草むらにいたのか謎が残ります。もしかしたら産卵のために陸地にいたのかもしれない。(佐)



↑ 計測後、瀬音の湯付近の秋川に放しました。

秋川清流下り ～夏の秋川溪谷を子どもたちと探検～

7/27、NHKの生放送終了後、私、佐々木、生放送と一緒に出演してくれた子どもたちと一緒に秋川の川下りに行きました。出発地点のあきる野市と檜原村境界付近までは車で向い、そこから川を泳いだり、流されたり、歩いたりして終点の小宮ふるさと自然体験学校を目指します。上の写真にあるように、出発地点付近は峡谷の様相を成しており、川の水も透き通りとてもすがすがしい気分になります。川に浮いて流れに身をまかせていると、足元をすり抜ける魚影が見えたり、木漏れ日が差していたりと自然の一部になったような気がしてきます。

荷田子付近まで川を下ってくると川に遊びに来ている人にちらほら遭遇し始めます。そして、十里木まで来ると人、人、人。たくさん人の川遊びの人の群れです。川は危険ですので、ライフジャケットなどの装備をしっかりと安全重視で遊んで下さい。(佐)

